

## ボディコート・ジャパン

# 熱処理の「社内外注」開拓

## 内製部門を買収へ

企業  
合理化支援  
の  
受託で  
継続加工

熱処理受託加工世界最大手、英国ボディコート・ジャパン(本社名古屋市中区、ジュリアン・ベイシヨア社長、電話052・912・5518)は、製造業などが抱える熱処理事業を取得した上で継続して受託加工にあたる「社内外注」の案件開拓に乗り出した。企業の合理化を支援する一方、外部の仕事も取り込み収益確保につなげる。展開形態を多様化し、国内事業を加速する狙いだ。(岩崎幸一)

国内の熱処理加工の投資効率が低い面がうち、およそ九割は製

造業などの内製で、残一割を専門業者が手

がけている。内製では物流費低減や納期短縮

が、空いた時間を活用して社外業務もこな

が図れるものの、「稼働は一週間のうち二、三日程度」が多く、近代設備が求められる割

り、設備の二十四時間稼働を目指す。

「社内外注」は内製と外注の間とも呼べる位置づけ。内製の熱処理設備を技術者も含めて部門ごと買い取り、受託加工先として継続して業務に当たる。一

百九十九カ所の加工拠点を国内に十九カ所構築する計画で、「社内外注」を自前での拠点新設、専門業者のM&Aと並ぶ柱として国内展開に加速度をつける。

ジュリアン・ベイシヨア社長



ジュリアン・ベイシヨア社長

「社内外注」は内製と外注の間とも呼べる位置づけ。内製の熱処理設備を技術者も含めて部門ごと買い取り、受託加工先として継続して業務に当たる。一

百九十九カ所の加工拠点を国内に十九カ所構築する計画で、「社内外注」を自前での拠点新設、専門業者のM&Aと並ぶ柱として国内展開に加速度をつける。